

日本中東学会ニューズレター

JAMES

NEWSLETTER

No. 119

2009

目 次

サッポロの秋、エネルギーの秋.....	2
第2回日本中東学会奨励賞受賞者の決定.....	4
『日本中東学会年報』投稿規程、原稿執筆要領の改訂.....	6
第26回年次大会研究発表の募集.....	6
日本中東学会年報編集委員会報告.....	8
2009年キルギスのCIEPO国際学会に参加して.....	8
会員の異動.....	10
寄贈図書.....	11
事務局より.....	12
2010年度会費納入に関するお詫びとお願い.....	12
編集後記.....	13

サッポロの秋、エネルギーの秋 ～日本中東学会第15回公開講演会のお知らせ～



札幌で開催する公開講演会が近づいて参りました。中東だけでなく、中央ユーラシア地域をも視野に入れて、エネルギー問題の切り口から、地球社会と日本の将来を考える、というのが本公演会の趣旨です。

たいへん刺激的で充実した議論がうかがえることと期待しています。みなさま、秋深まる札幌にどうぞお越しください。

テーマ：「中東と中央ユーラシア——資源、民族問題、イスラーム」

日時：2009年10月24日（土）

午後1時30分から午後5時30分まで（午後1時開場）

* 前号のニューズレターでお知らせした後、開始時間を30分早めましたので、
ご注意ください。

会場：北海道大学・学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目；JR札幌駅より徒歩7分）

プログラム：

挨拶：長沢栄治（会長）

講演：

清水学（会員）「グローバル化の波とユーラシア大陸南部の再編成」

本村眞澄「ロシアの石油・天然ガス開発と輸送問題」

宇山智彦「中央アジアと中東を結ぶものと分けるもの—歴史・民族・イスラーム」

保坂修司（会員）「変容するサウジアラビア社会」

コメント：

加藤博（会員）「“アジアのなかの中東”の視点から」

岩下明裕「将来のユーラシア国際秩序の視点から」

司会：黒木英充（企画担当理事）

参加費：無料

学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/> から「公開講演会」に、そして第15回公開講演会のページにお進み下さい。ポスターやチラシをご覧になれます。ポスターの写真は、講師の保坂修司さんに提供して頂きました。

以下、講師・コメンテータのご紹介です。

清水学（しみず・まなぶ） 帝京大学・経済学部・教授

専門は地域経済論（中東・南アジア・中央アジア）、途上国経済論、比較経済体制論。グローバル化と持続可能な経済体制の可能性、民族・宗教アイデンティティとの関係に関心を持っている。

主な著書：『中東政治経済論』（共著）国際書院、2003年/『ロシア・東欧経済論』（共著）ミネルヴァ書房、2004年/『アフガニスタンと周辺国－6年間の経験と復興への展望－』（共著）アジア経済研究所、2008年。

本村眞澄（もとむら・ますみ）（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構・石油開発支援本部・調査部担当審議役・主席研究員

専門は石油地質学、特に地球資源量、ロシア・中央アジアの石油・天然ガス政策とパイプライン問題を主要なテーマとして研究している。

主な著書：『石油大国ロシアの復活』アジア経済研究所、2005年/『トコトンやさしい天然ガスの本』（共著）日刊工業新聞社、2008年/『石油資源の行方』（共著）コロナ社、2009年。

宇山智彦（うやま・ともひこ） 北海道大学・スラブ研究センター・教授

専門は中央ユーラシア近代史・現代政治。最近は特に、帝国論の視点から、ロシア帝国の中央アジア統治と他の諸帝国の辺境・植民地統治を比較したり、現在の国際秩序における小国の役割を分析したりすることに関心がある。

主な著書：『中央ユーラシアを知る事典』（共編著）平凡社、2005年/『地域認識論：多民族空間の構造と表象（講座スラブ・ユーラシア学第2巻）』（編著）講談社、2008年/『日本の中央アジア外交：試される地域戦略』（共編著）北海道大学出版会、2009年。

保坂修司（ほさか・しゅうじ） 近畿大学・国際人文科学研究所・教授/ 日本エネルギー経済研究所・研究理事

専門は湾岸地域近現代史。最近は、ジハード主義組織の動向、中東のメディア

論、科学技術史などにも関心をもっている。

主な著書：『乞食とイスラーム』筑摩書房、1994年/『正体—オサマ・ビンラディンの半生と聖戦』朝日新聞社、2001年/『サウジアラビア』岩波新書、2005年。

加藤博（かとう・ひろし） 一橋大学・大学院経済学研究科・教授

専門はアラブ社会経済史。エジプト農村部でのフィールド調査のほか、中東の過去・現在・未来をアジアの文脈で研究する視点を探っている。

主な著書：『イスラーム世界の危機と改革』（世界史リブレット 37）山川出版社、1997年/『「イスラーム vs. 西欧」の近代』講談社現代新書、2006年/『ナイール—地域をつむぐ川』刀水書房、2008年。

岩下明裕（いわした・あきひろ） 北海道大学・スラブ研究センター・センター長、教授

専門はロシア外交、ユーラシア国際政治。とくにユーラシア地域の国境問題に興味を持って研究を進めている。

主な著書：『中・ロ国境 4000 キロ』角川書店、2003年/『北方領土問題：4でも0でも、2でもなく』中公新書、2005年/『国境・誰がこの線を引いたのか：日本とユーラシア』（編著）北海道大学出版会、2006年。

本講演会は、中央ユーラシア地域に関して先端的研究を進める北海道大学スラブ研究センターの後援を頂いて開催します。また科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の支援も受けております。

（黒木英充）

第2回日本中東学会奨励賞受賞者の決定

第2回日本中東学会奨励賞は、2009年度年次大会総会での報告にしたがい、評議員による再度の推薦と選考委員会による最終選考を行った結果、岩崎えり奈会員に授与することとなりました。選考委員会からの報告は下記の通りです。

なお、第2回日本中東学会奨励賞の授与式は、2010年度年次大会（於：中央大学）において、執り行われる予定です。

第2回日本中東学会奨励賞の選考について

第2回日本中東学会奨励賞に関して、受賞論文、選考過程、受賞理由を報告致

します。

日本中東学会奨励賞選考委員会（小杉泰第 10 期会長、三浦徹第 11 期会長、青山弘之『日本中東学会年報』編集長代行）は、去る 7 月 28 日、以下の論文を第 2 回日本中東学会奨励賞の受賞作とすることを決定いたしました。

IWASAKI Erina (岩崎えり奈), "What is the Aila?: A Comparative Study of Kinship Structure in Egyptian Villages"(Special Issue I: Study of Regional Diversity in Egypt from Mutli-Perspectives Views), *AJAMES*, No. 22-2, March 2007, pp. 105-123.

本奨励賞の選考は、2007 年および 2008 年に公刊された『日本中東学会年報』(*AJAMES*) 第 22-2 号 (2007 年 3 月)、第 23-1 号 (2007 年 7 月)、第 23-2 号 (2008 年 1 月)、第 24-1 号 (2008 年 9 月) に所収された 40 歳以下の学会員による外国語論文を主な対象といたしました。

選考は以下 2 段階を経て行われました。

- ① 第 12 期評議員 62 名による候補作の推薦：推薦期間は当初 2009 年 2 月 20 日から 3 月 6 日までとしましたが、同期間中に候補作を推薦した評議員が 2 名に過ぎなかったため、6 月末日まで推薦期間を延長、最終的に 11 名の評議員が 6 本の候補作を推薦。
- ② 選考委員会による最終選考：第 12 期評議員が推薦した候補作を慎重に審査し、上記論文を受賞作とすることを決定。

受賞作となった岩崎会員の論文は、エジプトの統計局との連携による同国村落の社会調査を行った現地主義的なスタンスという点と、地理情報システム GIS を駆使して調査結果を集計・分析を行った斬新な手法という点において秀でており、日本だけでなく世界の中東研究に新たな視座を持ち込むものと高く評価でき、本奨励賞受賞に値する優れた論文であると判断されました。

なお、今回の奨励賞の選考では、推薦期間の延長に伴う最終選考の延期、特集所収論文を単独で（特集を構成する他の原稿や総論部分と切り離して）評価することの是非、『日本中東学会年報』における欧文率向上の一環としての意味を有する特集（所収論文）を、同じく欧文率向上を主要な目的の一つとする本奨励賞をもって評価することの是非、などが問題点として指摘されました。しかし、これらの点は、『日本中東学会年報』を通じた外国語による成果普及を通じて克服し得ると考えておりますので、会員のみなさまには引き続き、本賞へのさらなるご支援を賜るよう、お願い申し上げます。

(青山弘之)

『日本中東学会年報』投稿規程、原稿執筆要領の改訂

去る 8 月 1 日、『日本中東学会年報』（AJAMES）編集会議を開催し、編集上の問題を指摘されていた『日本中東学会年報』投稿規程、『日本中東学会年報』原稿執筆要領を、以下の通り改訂することを提案し、第 13 期理事会での審議において 9 月 14 日に正式に承認されました。

主な改訂内容は以下の通りです。

『日本中東学会年報』投稿規程に関して

- ① 6.2：節、項などの連番の打ち方を現物に合わせる。
- ② 6.3：論文・研究ノート of 要旨に関して、本文と異なる言語での節立てが記載されない現物に合わせ、節立ての明記を不要とする。
- ③ 6.4：原稿執筆要領の構成と対応させるため、6.7 に移動。

『日本中東学会年報』原稿執筆要領に関して

- ④ VII で原稿の見本を新たに掲載。

改訂内容の詳細については、2009 年 12 月出版予定の AJAMES25-2 号学会記事に掲載される改訂版『日本中東学会年報』投稿規程、『日本中東学会年報』原稿執筆要領、日本中東学会ホームページの関係ウェブページ（URL は下記を参照）をご覧ください。

『日本中東学会年報』への投稿

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/publications/ajames/contribution/guideline/contribution.html>

『日本中東学会年報』原稿執筆要領

http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/publications/ajames/contribution/guideline/pdf/AJAMESyouryou_200602.pdf

（青山弘之）

第 26 回年次大会研究発表の募集

来年度の年次大会は、2010 年 5 月 8 日（土）9 日（日）に、中央大学多摩キャンパスにおいて開催されます。以下のように研究発表を募集いたします。都心からのアクセスについては中央大学ホームページにてご確認くださいませよう願ひ申し上げます。

中央大学：<http://www.chuo-u.ac.jp>

なお会場へのアクセス方法については、来年4月に正式プログラムとともにご案内いたします。

例年どおり研究発表は2日目です。

1. 研究発表

研究発表を希望される方は、9月24日（木）～12月11日（金）までの間に年次大会実行委員会事務局までご応募ください。その際、氏名（ローマ字表記を併記）、所属、発表の題目（仮題で可）、概要（日本語で400字、欧文の場合は200語程度。内容がわかるもの。正式の「要旨」は、プログラム確定後、改めて発表予定者に執筆をお願いすることになります）、使用希望機器をお申し出ください。

2. 企画セッション

第26回年次大会では、会員による企画セッションも公募します。募集期間は、研究発表と同じく9月24日（木）～12月11日（金）までとします。特定のテーマについてセッションの企画をご希望の方は、以下の要領でご応募ください。

持ち時間は2時間（予定）で、発表者は3から4名です。コメンテーター（討論者）をつけるかどうかは自由ですが、司会者は必ず1名必要です。発表者と司会者は日本中東学会会員であることとしますが、コメンテーターはこの限りではありません。企画者は、企画セッションのタイトル、企画の趣旨（日本語で400字程度、欧文の場合200語程度）、参加者の一覧（氏名・ローマ字表記も併記、所属）、各発表者の発表の骨子（趣旨文と同様の分量）、使用希望機器を、年次大会実行委員会事務局宛てにお送りください。司会者とコメンテーターは応募の時点で確定していなくてもかまいません。なお、調整の都合上、企画の内容について、事務局から適宜問い合わせ・ご相談をさせていただくことがあります。

3. 託児所

託児所の利用を希望される方は、大会実行委員会事務局までお申し出ください。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

連絡先

日本中東学会第26回年次大会実行委員会事務局
〒192-0393 八王子市東中野742-1

中央大学総合政策学部 清水芳見研究室

TEL.042-674-4133 Fax.042-674-4118 (学部事務室)

E-mail: shimizu@fps.chuo-u.ac.jp

*可能な限りメールでご連絡・お問い合わせいただければ幸いです。

(松田俊道)

日本中東学会年報編集委員会報告

『日本中東学会年報』(AJAMES) 編集委員会より、ご報告いたします。

『日本中東学会年報』(AJAMES) 編集進捗状況

すでにお手元に届いていることと思いますが、25-1号が2009年7月に刊行されました。論文6作(うち英文1作、和文5作)、研究ノート1作(英文)、その他(書評、博士論文要旨、報告)7作(英文)が掲載されています。会員の方で冊子がお手元に届いていない方がおられましたら、事務局にご一報ください。

現在、25-2号の編集作業を鋭意進めております。今年12月の刊行予定です。

26-1号(2010年6月刊行予定)の投稿締切は2009年12月20日です。論文、研究ノート、書評、博士論文要旨など、各ジャンルへの投稿をお待ちしております。また英文による特集の企画がありましたら、是非お寄せ下さい。

(青山弘之)

2009年キルギスのCIEPO国際学会に参加して

2009年8月24日から29日の6日間、キルギスの首都ビシケクにおいて、前オスマン・オスマン研究国際委員会(CIEPO)主催の国際会議「前オスマン・オスマン文化の中央アジア的ルーツについて」が開催された。CIEPOは二年に一度、定例国際会議を開いており、2008年8月にはクロアチアのザグレブで開催され、2010年にはトルコのヴァンで開催予定であり、今回はそれらの中間会議となった。

日本との時差3時間、日中の気温は30度、ラマダーン月が始まった直後の週末となった23日早朝、マナス国際空港に降り立ち、市の中心街からは15分ほどの郊外に位置するキルギス・トルコ・マナス大学へ向かう。トルコを中心にギリシア(エリザベス・ザハリアドウ氏)、イタリア(ヴァレリア・ピアセンティーニ氏)、米国、ハンガリーなど各地から参加者たちも続々と集結、発表者の数は100名に上った。日本からは鈴木董会員、松尾有里子会員のほか、相馬拓也氏(早

稲田大学)、富田敬大氏(立命館大学)とわれわれ小杉麻李亜・江川ひかりの計6名が参加した。会議の全日程は以下の通りであった。

23日(日):現地入り組が、国立歴史博物館、オシュ・バザール(食料品や衣類、雑貨を売る最大のバザール)、キルギスの英雄マナスの銅像など市内見学。

24日(月):会議初日。朝8時半から登録、開会式後にイセンビケ・トガン、鈴木董、ミヒヤエル・キール三氏に名誉博士号が授与され、三氏が基調講演をおこなった。鈴木会員は「日本におけるオスマン史研究の発展と現状」と題して、芦田均氏以来、今日に至るまでのオスマン史研究動向を明快に跡付けた。午後からは二会場で、「アイデンティティおよび民族系統の諸問題Ⅰ」「歴史資料Ⅰ」「遊牧民」「オスマン・ユーラシア関係Ⅰ」の4セッションが開催。これらのうち、「遊牧民」セッションにおいて、江川が「オスマン朝遊牧民の徴税請負制への包摂:ヤージュ・ベディル遊牧民の事例から」で徴税請負制度に遊牧民が決して簡単に組み込まれたわけではない具体例を示した。富田氏は「移動と定住をめぐる葛藤?:ポスト社会主義モンゴル国における放牧地の利用と管理」を発表し、時代や季節で異なる牧地利用の実態を詳細な視覚資料で提示し、聴衆の目を釘付けにした。

25日(火):会議2日目。朝9時半から午後6時にかけて、8セッションが開催。「芸術・建築Ⅰ」「文化・社会Ⅰ」「言語・文学Ⅰ」「宗教・信仰Ⅰ」「アイデンティティおよび民族系統の諸問題Ⅱ」「歴史資料Ⅱ」「教育・科学Ⅰ」「考古学」のうち、「考古学」で相馬氏は「北天山イリ盆地の遊牧民『烏孫』」に関する事例研究を発表。「歴史資料Ⅱ」で松尾会員が「地方行政におけるオスマン朝のカーディー:ルメリ・カザスケル登録簿(1550-1600)の分析から」においてウラマーが徴税請負業務に従事していた実態を綿密な史料分析に基づき明らかにし、研究水準の高さをきわだたせた。「宗教・信仰Ⅰ」で小杉が「クルアーンの口誦性とテキスト性:イスラーム的伝統における聖なる『書物』の研究」を発表、世界的に注目される重要テーマであると好評を得た。

26日(水):エクスカージョン1日目。スターリン時代に137人の知識人が粛清された焼却炉跡が残る慰霊の地アタ・ベイト、カラ・ハーン朝時代の塔など建造物が残るブラーナ遺跡および国内各地から集められた石人像、カルマック族の村での馬上競技を見学。

27日（木）：エクスカージョン2日目。ビシケクより南西約150キロのスーサムルにある夏営地（標高3000メートル以上）に構えられた遊牧民の天幕を訪問。天が近く、澄んだ空気に心身洗われる。

28日（金）：会議3日目。「歴史資料Ⅲ」「オスマン・ユーラシア関係Ⅱ・Ⅲ」「言語・文学Ⅱ・Ⅲ」「行政・制度Ⅰ」「芸術・建築Ⅱ」「宗教・信仰Ⅱ」「文化・社会Ⅱ・Ⅲ」の10セッションが開催。

29日（土）：エクスカージョンおよび閉会式。キルギス最大の湖、ウスク湖湖畔にて。

今回は開催地がキルギスであり、オスマン文化への中央アジアからのルーツをメインテーマとしていたため、いわゆるオスマン史研究そのものというよりは、たとえば石人像を日本からヨーロッパに広がる彫像・図像と比較して分析するなどの文化的研究が目立ち、ややもすると表層的内容の発表も目についた。とはいえ会議全体をとおして、従来西ばかり向いてきたオスマン史研究に対して、東からのトルコ的、アジア的、遊牧的影響を再認識すべき点がトガン氏を筆頭に強調されたことや、トルコ文化の口承性が再重要視されたことは意義深い。加えて、日本からの発表が、詳細な資料に基づく水準の高い研究であると高評価を得たことは決して自画自賛ではない。標高が高い土地で連日ハードな会議とエクスカージョンをこなしたが、トガン氏、ザハリアドウ氏やトゥンジェル・バイカラ氏などの大御所がもっとも足取り軽く遺跡に登られる姿を目の当たりにして、研究は体力だ、ということ改めて痛感した。われわれは都合上28日に帰国せざるを得ず、閉会式まで出席できなかったことが惜まれる。会議開催に、不眠不休で尽力してくださったイルハン・シャーヒン大会事務局長に心から感謝申し上げたい。

（小杉麻李亜・江川ひかり）

会員の異動

【新入会員】

大塚 建司

小野 亮介

清水 訓夫

志村 文子

中島 隆晴

【所属先・連絡先の訂正・変更】

栗倉 宏子

太田 敬子

奥田 敦

鈴木 瑛子

関口（宮下） 陽子

鶴見 太郎

川久保 一美

Bukhary Essam Amanallah

寄贈図書

【単行本】

中村満次郎 『ある潜められた知的生活』（著作集：アラブの理念と現実）青年の家、1968年。

『コーランの世界』栄光出版社、1974年。

【逐次刊行物】

『現代の中東』 No.47 アジア経済研究所、2009年。

『季刊アラブ』 No.130 日本アラブ協会、2009年。

『東方学会報』 No.96 財団法人東方学会、2009年。

『アラブ・イスラム研究』 No.7 関西アラブ研究会、2009年。

Bulletin of the School of Oriental and African Studies, vol. 72, no.2, Cambridge University Press, 2009.

The Iranian Journal of International Affairs, vol. 20, no.4, The Institute for Political and International Studies (IPIS), 2008.

Newsletter, no.78, OIC Research Centre for Islamic History, Art and Culture (IRCICA), 2009.

Newsletter, no.4, Kyoto University, Global COE Program, 2009.

Perceptions: Journal of International Affairs, vol. 13, no. 3, Center for Strategic Research (SAM), 2008.

事務局より

新事務局体制となってから、半年近くが経過しました。通常の業務は、何とか軌道に乗ってきましたが、10月開催の公開講演会や中央大学における2010年度年次大会の準備など、新たな業務も山積しています。相変わらず、事務局補佐の錦田愛子会員と貫井万里会員には、日常的業務をお願いせざるを得ない状況で、2010年度以降の事務局体制の改革なども視野に入れて行きたいと考えております。今後とも、会員の皆様にも学会活動へのさらなるご協力をお願い申し上げます。次第です。

なお、本年9月に実施された早稲田大学内部の研究施設再編に伴って、事務局の場所が移動しましたが、再び移動することも考えられます。郵便等の連絡先住所や電話番号、メールアドレスの変更はございませんが、事務局にお越しいただく場合には、事前にご確認ください。

(店田廣文)

2010年度会費納入に関するお詫びとお願い

前号のニューズレター118号をお送りした際に、誤って、一部の2010年度会費納入済み会員に対して、払込用紙が同封されてしまいました。そのため、すでに同年度分の会費を納入済みの会員からも、重複して2010年度会費が振り込ま

れました。今後の処理について検討しました結果、事務局では、重複した会費分を 2011 年度会費として、処理させていただくことを考えております。該当する会員の方には、順次お知らせいたします。

今回の不手際については、原因を特定し対応を進めましたので、再びこのようなことが生じないよう事務局運営に努めて参ります。どうぞご寛恕のほど、お願い申し上げます。なお、会費納入について、その他のご不明の点がある場合には、事務局までお知らせください。速やかに対応いたします。

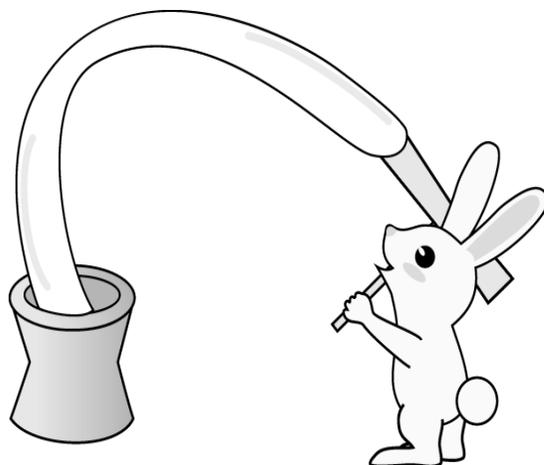
(店田廣文)

編集後記

力のこもった国際学会の報告を掲載することができました。秋に出すニュースレターは、大会報告で分厚い前の号と比べてどうしても薄くなるのですが、国外の動向をお知らせできる良い機会になっています。

これからの課題は、そろそろニュースレターもデジタル化したほうが良いのでは、ということ。紙媒体でない方が労力・予算を圧縮でき、カラーにしたり写真を掲載したりできてよいのですが、手元に定期的にニュースレターが郵送で届く方が、学会員としての実感は得られますよね、悩むところです。

(山岸智子)



会費納入のお願い

本会は会費前納制をとっております。2010 年度およびそれ以前の会費に未納がある方は、本号のニューズレターに郵便振替払込用紙が同封されておりますのでご利用ください。AJAMES に未送付分がある場合は、2009 年度以前の未納分会費の払込確認後お送りいたします。また、中央大学における年次大会での研究発表や AJAMES への論文投稿を予定されている会員の方は、是非とも会費納入を宜しくお願い申し上げます。なお、請求会費額は 2009 年 9 月末日の振込確認に基づいておりますので、その後に納入され、請求に行き違いが生じた場合にはご寛恕ください。

日本中東学会ニューズレター 第119号

発行日 2009 年 10 月 16 日
発行所 日本中東学会事務局
印刷所 東洋出版印刷株式会社

日本中東学会事務局

〒162-0041
東京都新宿区早稲田鶴巻町 513 番地
早稲田大学 120-4 号館 3 階
早稲田大学イスラーム地域研究機構気付
日本中東学会事務局
電話/ファクス：03-5286-1966
E メール: james@db3.so-net.ne.jp
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/>
郵便振替口座：00140-0-161096(日本中東学会)
銀行口座：三井住友銀行渋谷支店(普)5346808
(日本中東学会 代表 長沢 栄治)
ゆうちょ銀行口座：〇一九店(当)0161096
(ニホンチュウトウガクカイ)